

資料編

1.よくある質問への対応

1-1.カラスの生態・行動編

- 1) カラスは何年生きるのですか ----- 110
- 2) カラスは何羽いるのですか ----- 110
- 3) カラスは、なぜ頭が良いのですか ----- 111
- 4) カラスの“7つの子”とは本当ですか ----- 111
- 5) カラスは、どのくらい移動するのですか ----- 111
- 6) カラスは、なぜ黒いのですか ----- 112
- 7) カラスは、何を食べているのですか ----- 113
- 8) カラスは、腐肉を食べてもお腹をこわさないのですか ----- 113
- 9) カラスに天敵はいるのですか ----- 113
- 10) カラスの死体がないのはなぜですか ----- 113
- 11) カラスはどこで眠るのですか ----- 114
- 12) カラスはどこに巣を作るのですか ----- 115
- 13) カラスの群れにボスはいるのですか ----- 115
- 14) カラスの雄雌は区別できますか ----- 116
- 15) カラスがいなくなったら都会の自然はどうなりますか ----- 117
- 16) カラスに良いところはないのですか ----- 117
- 17) カラスに病気はないのですか ----- 117

1-2.カラスの保護・管理編

- 1) カラスは保護鳥ですか ----- 118
- 2) カラスは、どうして人を襲うのですか ----- 118
- 3) カラスは、どのような方法で捕まえるのですか ----- 119
- 4) どうしたらカラスを減らせるのでしょうか ----- 120
- 5) カラスは、なぜうるさく鳴くのですか ----- 120
- 6) カラスと目が合うと襲われるって本当ですか ----- 121
- 7) カラスはどうしたら飼えますか ----- 121
- 8) カラスは食べられますか ----- 121
- 9) カラスはどうしてごみを食い散らかすのですか ----- 122
- 10) カラスはどうして群れているのですか ----- 123
- 11) カラスがツバメの巣を狙っているのですがどうしたらよいですか ----- 123
- 12) カラスの幼鳥を拾ったのですが、どうしたらよいのでしょうか ----- 124

1-1.カラスの生態・行動編

①カラスは何年生きるのですか

野鳥の寿命を調べることは、たいへん困難なことです。1羽ごとに区別をして何年も追わなくてはならないからです。また、孵らない卵、巣立ち直後の雛の死亡率も高く、これらを平均に入れるととても短くなってしまいます。野生動物では、幼少時の死亡率がたいへん高いものです。それを乗り越えて繁殖年齢にまで成長すれば、その後はかなり生き延びるものと思われま

す。少ないデータからカラス類の寿命の記録を紹介するとミヤマガラスの例で19.9年（ペリンズ、M.クリストファー 1996）というのがあります。日本のカラスについては「飼育されて20年生きた例がありますが、自然条件では8、9年も生存すればよいほうである」という記述（由井正敏、阿部禎・他 1992）があります。また、黒田長久博士は羽の色に特徴のあるハシブトガラスを少なくとも14年間、野外で観察しています（講演より）。これらを総合すると、たいへん幅の広い言い方をすれば10～20年程度といったところでしょう。

また、ハシブトガラスが繁殖できるようになるのには、おそらく3年はかかるだろうといわれています（黒田長久 1982）。ですから、繁殖のチャンスは寿命から引いた程度の回数だと見ることができます。

②カラスは何羽いるのですか

カラスはもとより、野生の鳥の個体数を把握することはかなり難しいことです。一定の限られた地域にいる野鳥を、短期間にいっせいに数えることで、その地域の個体数と見積るのが一般的な方法です。ところが鳥には翼があり、移動性に富んでいることから小規模な移動から大規模な渡りを行うため、特定の地域で調べた数とより広い範囲で調べた数では誤差がたいへん大きくなります。さらに、雛が巣立った直後は数が増え、冬は死亡率が高くなるので減少するという季節による変化もあります。またハシブトガラスの場合は比較的移動性が少ないと思われませんが、特定の狭い公園のなかの数と東京23区、さらに広い首都圏というとらえ方によってはかなり異なってくることでしょう。

ハシブトガラスを含めてカラス類は、冬に集団でねぐらをとるので、このねぐらに集まる数を数えることで、その地域一帯にどのくらいの規模の数で生息しているという目安を立てることができます（85ページ参照）。

東京周辺の例でいえば、冬のねぐらに集まるカラスの数を集計した結果があります（川内博 2000）。これは、調査の期間、時期、報告者もまちまちですので一概に合計することはできませんが、2001年現在、東京都にはおよそ30,000羽、首都圏では80,000羽以上のカラスが生息していると考えられています（20ページ参照）。

全国規模のカラスの数の報告はほとんどなく、推定することは現状では困難です。

3 カラスは、なぜ頭が良いのですか

「頭の良さ」は大きく記憶と学習の能力が高いことだと考えられます。カラス類が、なぜ頭が良いのかは、いろいろなことが考えられますが、ひとつに食べ物を蓄えておく貯食習性によるのではないかとされています。

食べ物の少ない冬に、頭の良いものは貯食しておいた食べ物を取り出して生き延びることができます。あるいは、子育てのシーズンに、たくさん食べ物を得て隠しておくことのできた親鳥の雛ほど巣立ちする可能性が高いわけです。記憶力、頭のよい親ほど子孫を多く残せるわけで、その能力が子どもにも備わっている可能性が高いわけです。このような自然淘汰の過程が、何世代にも渡って行われてきたことが、カラスの記憶力を高めてきたと考えられています。

また、親に養ってもらう期間が長い生きものほど、学習能力に負うところが大きくなります。これは、白紙状態で生まれてきた子どもが、親や若者の群れの仲間の行動を見て、学習したことを身につけていく必要があるからだと考えられます。

4 カラスの“7つの子”とは本当ですか

童謡『七つの子』では、カラスには山に可愛い7つの子がいると歌われています。普通、ハシブトガラスもハシボソガラスも、卵の数は多くて5個で、普通はだいたい3~4個です。しかし、この卵がすべて孵り、雛になるわけではなく、巣立ち近くの状態で巣にいる雛の数は、1羽から3羽が一般的で、4羽の例はさほど多くはありません。

実際に多い「みっつ」や「よっつ」では、字足らずで歌いにくくなってしまうため「七つの子」は、詩の語呂のよさから選ばれた言葉ではないでしょうか。

また、「七つ」は子どもの年齢で、子どもの死亡率の高かった昔は、だいたい7歳まで生きられれば一安心でした。そんな、意味が含まれているのではないかという説もあります（唐沢孝 - 1996）

5 カラスは、どのくらい移動するのですか

都会のハシブトガラスが、どのくらいの距離を移動しているのか、最近になってタグや発信機を付けることによる調査の結果から、少しずつわかってきました。

東京都目黒区の自然教育園をねぐらにしているカラスにタグを付けて調査をした結果では、ハシブトガラスの若鳥では、ほとんどがねぐらから10km以内で観察されています。また、一番遠いもので藤沢市片瀬江ノ島や青梅市新町小学校で約41kmという移動が記録されています（藤村仁 1999）。

また、PHSをつけて放した上野公園のハシブトガラスの行動もほとんどが公園周辺にいて、遠くてもやはり10km程度にとどまっています。ただし、これはいずれもなわばりを持っていない若鳥の行動です。

また、なわばりを持った成鳥がどの程度の移動をするのか、季節による移動距離の違い、都

市以外のハシブトガラス、あるいはハシボソガラスの行動など、まだまだ不明な部分がたくさんあります。今後の調査研究が待たれます。

⑥ カラスは、なぜ黒いのですか

これほど簡単で答えの難しい質問はありません。この疑問には、いろいろな分野からそれぞれ答えることができるからです。例えば、生物物理学では羽根に色素のメラニンがあることで強度を増しています。生理学から言うと、黒い色で体熱の効果的なコントロールをしている可能性があります。行動学的には、黒い目立つ色をしていることで、集合する時の信号になっているかもしれません。生物社会学的には、成鳥は若鳥よりも色が濃く、社会的な地位を表しているかもしれない、というようにいろいろ考えられます。おそらく、複数の理由があるのでしょう。これを科学的に検証することはたいへん困難なことです。

ところで、カラスの仲間の多くは全身が黒い、あるいは大部分が黒い羽毛に覆われているように見えます。しかし、飛んでいるのを下から太陽の光に透かしてよく見ると、濃い茶色に見えます。あるいは、落ちていた羽を太陽に透かして見てもわかります。実際の色素の多くは茶色のメラニンなのです。また、「鳥の濡れ羽色」と言われるように、光が当たると緑色、濃紺、紫色など、反射した光がいろいろな色に見えます。これは、羽の色素ではなく、羽の構造により光が様々に反射して角度によっていろいろな色に見え、構造色といわれるものです。

昔話では、フクロウは染物屋でした。この染物屋にキジやキツツキ、ハト、スズメがやってきて、それぞれ染めてもらいました。最後にカラスがやって来ましたが、自分だけは他の鳥よりももっときれいに染めてくれと頼みました。あまりにも勝手なことを言うので、フクロウの染物屋は、カラスを真っ黒に染めてしまったのです。それ以来、カラスはフクロウを恨んでフクロウを見つけると追いまわすようになり、フクロウはカラスをさけて夜に行動するようになったと言います（内田清之介 1961）。昼間、カラスがフクロウのまわりに集まって騒ぎ立てるモビング（ぎこうげき擬攻撃）する行動を昔の人がちゃんと観察していたことがよくわかります。



昔話のなかではフクロウに黒く染められました

7 カラスは、何を食べているのですか

カラスが何を食べているかを調べるのは意外と難しいことです。捕まえたものを解剖して胃の中に入っているものを分析するのが、ふつう行われている方法です。しかし、都会では銃器を使うことができないのがほとんどなので、わなで捕まえたものしか手に入りません。わなにかかるのは食べ物を採るのが下手な若者が多いので、お腹がすいて餌につられて捕まってしまうわけです。ですから、お腹のなかは空っぽのことが多く、胃の内容物を調べても結果がでません。

ただ、かつての論文や調査などから言えることは、ハシブトガラス、ハシボソガラスとも、雑食性です。植物も動物も食べます。また、ハシボソガラスは草の実や農作物が多く、ハシブトガラスは木の実などが多いという報告があります（ 8ページ参照 ）。

8 カラスは、腐肉を食べてもお腹をこわさないのですか

カラスが生ごみを食べていると言っても、それほど腐敗したものを食べているわけではありません。動物の死体も腐乱していればカラスも食べません。とはいっても、細菌が多く付着している食べ物を食べていることは違いありません。カラスやカモメのように死肉をよく食べる生きものは、いつも細菌の多いものを食べていることにより、強い免疫力があり、多少雑菌がついていてもお腹をこわさないようになっていると考えられます。

9 カラスに天敵はいるのですか

ハシブトガラスは日本にいる鳥の中では中型から大型の鳥です。このクラスの大きさの成鳥を捕らえることができるものは、オオタカやワシなどの大型の猛禽類くらいしかいません。事実、オオタカの巣の下にカラスの羽毛が落ちていたとか、オオタカの雌（雌の方が雄より体が大きい）がよくカラスを捕って食べているという報告もあります。

しかし、元来オオタカは数の多い鳥ではありません。カラスの数とオオタカの数バランスがとれていれば自然の仕組みとして、天敵であるオオタカの捕食が、カラスの数を抑える役割もあるかもしれません。しかし、カラスは強い敵にも集団で対抗するので一筋縄ではいきません。

また、卵や巣内の雛、幼鳥の頃には、ヘビやネコなどに捕らえられることがあります。さらに、かつては巣に上って卵や雛を取ったりしていた人間の子どもも天敵の一員だったと考えられます。

10 カラスの死体がないのはなぜですか

カラスの死体はないわけではありません。よく群れている場所や開けたところ、例えばごみ収集所のようなところでは、カラスの死体を見ることはないので、カラスの死体は見られないと思われているだけです。

死体を見つけることがあるのは、ねぐらの中やその周辺です。季節的には、食べ物が少なく、寒さの厳しい冬のほうが死体を多く見つけます。また、巣立ったばかりの幼鳥の死体も夏の終わりごろによく見かけられます。

一般的に、ねぐらは緑地のなかにあります。さらにその中でも人があまり入らない木が良く茂ったところ です。そのため死体があってもなかなか見つけられません。また、公園や神社などのねぐらで、順路や参道など人に見つけられやすい死体があると、清掃や管理の係の方がカラスの死体をすぐに片付けてくれます。公園で掃除をしている人に聞いてみると、カラスの死体を時々片付けていることを教えてくれるはず です。



ハシブトガラスの死体

11 カラスはどこで眠るのですか

カラスは、ハシブトガラスもハシボソガラスも何羽も集まって眠ります。これを集団ねぐらと呼んでいます。少ないねぐらで数10羽、多いと10,000羽ものカラスが集まって夜を過ごします。ねぐらは本来、山の中腹の森、鎮守の森など、樹木の多い所に作られます。都会では、規模の大きな緑地の公園や神社に集まっています。また、最近では小規模な緑地でも少数が集まってねぐらをとるのがわかってきました（ 19ページ参照 ）。

ねぐらの中では、冬であれば一年中葉の茂っているスギやヒバなどの針葉樹、クスやスダジイなどの広葉樹の中で眠ることが多くなります。夏には全体に、木の葉が茂るので特定の樹種ではなくなり、木の葉の茂った樹冠部の下の方の枝にとまって眠ります。1本の木に20～30羽がとまっています。また、このような枝の下は、植栽が少なく比較的開けているところが多い傾向があります。寝ている所は、上からオオタカなどの天敵には見えず、下はネコなどが近づいたらわかるような場所を選んでいるようです（ 12ページ参照 ）。



ねぐらのなかでは公園の葉の茂った下の枝にとまって眠ります

12 カラスはどこに巣を作るのですか

本来、ハシブトガラスは森の中の樹木に巣を作ります。比較して、ハシボソガラスは森の縁の樹木や草原のなかの独立木に作ります（ 8ページ参照）。

また、ハシボソガラスは農耕地の中の高圧鉄塔に作ることもあります。彼らから見れば草原の独立木に見えることでしょう。ハシブトガラスは、都会の中の緑地、住宅地の庭木、校庭の木、街路樹など基本的には樹木の枝に巣を作ります。しかし、最近では、人工的なもの、例えば広告塔の中、電柱、照明塔などにも作るようになりました。

このような巣のそばには、巣の位置より一段高い樹木、あるいは建築物などに見張り場を決めているのが普通です（ 11ページ参照）。

13 カラスの群れにボスはいるのですか

ハシブトガラスの社会構造については、まだあまり研究が進んでいません。大きく分けて、つがいの2羽でなわばりを持っているものと、3羽以上の群れで行動しているものが見られます。しかし、群れの中にも、いつも一緒にいる2羽が目につくことがあり、なわばりを持たない群れの中でもつがい単位で行動しているものがあるようです。

「ボス」というのは、群れの他のものより上位に立つ個体だと考えると、他の個体に先んじて食べ物をとるとか、良いとまり場を確保するなどの行動をとるものだと想像できます。

群れを良く見ていると、まず餌に飛びつくのはお腹がすいた個体、あるいは警戒心の薄い個体のようです。また、生ごみの山に群れが集まっても、いち早く危険を察知して飛び立つのは、警戒心の強い個体のようです。

生ごみの山のそばにとまっていたりも、なかなか中に入れずにいるものがあります。それを「見張り」と説明したTV番組がありましたが、顔をごみの山に方に向けているので、見張りでは

なく警戒して中に入れないう体のようにです。また、こうした個体が一番先に危険を察知して飛び立つこともあり、結果的に見張りと同じ効果を与えているかもしれません。しかし、それはカラスの社会の中で割り振られた役割とは別のものです。

このようなことから、群れの中でそれぞれの役割があるかどうかは、今後より深く科学的な検証が行われない限りわかりません。

14 カラスの雌雄は区別ができますか

諺にいう「誰か鴉の雌雄を知らんや」は、聖人君子か凡人か似ていて区別のつかない例えです。それだけに、昔からカラスの雌雄の区別は難しいということがわかります。正確に雌雄を調べるのは、体の中の生殖器の形で区別するしかありません。卵巣があるのが雌、精巣が大きいのが雄です。外見からカラスの雌雄を見分ける方法は、観察を積み重ねて、行動から判断することです。1羽でいると、よほど顔なじみのカラスでないとうわかりませんが、つがいぐが2羽でいると見当をつけることができます。2羽並んでいると、大きさが多少違うのがわかります。大きな方が雄の可能性が高く、体重では、雄は570～830g、雌は632～743gの差があるという報告があります（玉田克巳、藤巻裕蔵 1993）。

交尾をしていれば、上に乗っているのが雄で下になっているのが雌です。また、巣作りでは雄が巣材を運び、雌が細かいところを作るようです。巣の中で卵を温めるのは雌ですが、雛に食べ物を運び与えるのは共同作業です。こういう観察を積み重ねていくと、雌雄がだんだん見分けられるようになります。

ハシブトガラスの子育て



雌雄で雛に食べ物を運び与える



雄が巣材を運び雌が細かいところを作る



雌が卵を温め、雄が見張りをする

15 カラスがいなくなったら都会の自然はどうなりますか

都会の自然の中でハシブトガラスは、いろいろな生きものの捕食者の役割をしています。例えば、甲虫類やネズミ、鳥の卵や雛など捕らえることで、結果として、これらの動物の数をコントロールをする役割を果たしています。この他、ドバトも近年、都会ではたいへん増えた鳥ですが、ハシブトガラスに食べられることである程度、数が抑制されている可能性があります。

早朝の繁華街で生ごみを食べているハシブトガラスを見ていると、同じ場所にネズミもたくさんいます。そして、ネズミを食べているハシブトガラスも観察されています。もし、都会でハシブトガラスがいなくなると、ネズミなど人間にとっても有害なこれらの動物が増える可能性があります。

16 カラスに良いところはないのですか

前述のように、都会のハシブトガラスは都市の生態系の中で多くの生きものに対して捕食者としての役割をしています。その結果、特定の動物が増えることを抑制しているという大きな効果が考えられます。また、動物の死体などを片づけてくれます。この他、木の実を飲み込んで運び糞とともに種子を落とすことで種子を散布し、植物の繁栄に貢献しています。ばらまいている糞には、リンが含まれているのでリンの循環の一翼も担っています。これに、植物が芽生え、成長する時の栄養を森林に戻すことになります。

また、ハシブトガラスの増減の様子を見ることよって、ごみの量やごみの出し方の善し悪しなどを知ることができます。いわばハシブトガラスを環境の指標として見ることによって、私たちの身の回りの環境の様子を知ることになります。

17 カラスに病気はないのですか

特に都会のハシブトガラスに関する病気についての報告は、ありません。しかし、他の鳥の病気についての報告などから考えて、カラスも病気を持っている可能性はあります（クーパー & エリー 1987）。

鳥類特有の病気として、また人に感染する恐れのある病気としては有名なものはオウム病です。これは、ウィルス性微生物の一種を病原として、空気感染します。特に、ハトの感染率が高いといわれ、ハト病という別名があるくらいです。そのため、ドバトと同じところに住み、なおかつ食べることもあるハシブトガラスも、この病原菌を持っている可能性はあります。

人がオウム病に感染すると、発熱、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などのインフルエンザによく似た症状が出ます。普通、健康な人であれば、感染してもカゼをひいたと見過ごされてしまうことが多いと思われませんが、乳幼児や高齢者では重症になることもあります。オウム病は抗生物質による効果があるので、診断さえ適切に行われれば特に恐れる病気ではないとも言われています。

オウム病の病原菌は、糞などに含まれていることが多いので、飛沫として吸い込むこと

いように、鳥に触る時はマスクをするなどをしましょう。また、高齢者がカラスの死体の処理にあたることのないようにして予防すること、カゼや肺炎に似た症状が出たら医師にオウム病の可能性のあることを伝え、適切な処置をしてもらうようにしましょう。

この他、カラスに関わらず野鳥は、ダニなどの外部寄生虫を持っていることが多いものです。なかでも、シラミバエは人にもたかり、毛髪の中に入り込むことがよくあります。駆除などの作業でカラスに触る時は、タオルを頭に巻いて作業をしたり、作業後はシャワーを浴び、特に洗髪を丁寧に行うようにしましょう。

1-2.カラスの保護・管理編

①カラスは保護鳥ですか

かつて日本の野鳥のほとんどが狩猟の対象だった「狩猟法」の時代には、保護すべき鳥が指定されており、これを“保護鳥”と言っていました。しかし、現在の『鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律』では、すべての野鳥は原則として捕獲することができなくなっています。現在、狩猟の対象に指定されているのは日本の野鳥のうち、カモ類、キジ類を中心に29種類だけです。カラス類はミヤマガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラスの3種類です。ですから、ハシブトガラスもハシボソガラスも“狩猟鳥”ということになります。

ただし、狩猟をすることができるのは、都道府県で行われる狩猟免許試験に合格し、狩猟免許を受けた人に限られます。また、狩猟免許を持っていても、銃器で狩猟を行うのであれば、銃砲所持の許可を得る必要があります。そして、北海道以外では11月15日から2月15日の間の狩猟期間内、日の出から日の入りまでの時間、鳥獣保護区、休猟区、市街地など人家の多いところ、公道、社寺等をのぞく所でしか狩猟はできません。また、種類によっては1人1日何羽何頭までという制限もあります。この他、狩猟を行うためには、都道府県ごとの狩猟者登録を受け同時に狩猟者登録税と入猟税を納める必要があります。

狩猟以外でも、鳥を捕獲する場合があります。それは、農作物などに被害を与える、攻撃されて危険だなどの理由から許可を得て、実施される有害鳥獣駆除などの場合です。この場合、狩猟期、狩猟鳥とは関係なく被害があれば申請し、許可が下りれば捕獲することができます。ミヤマガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラスの3種類も、有害鳥獣駆除の申請が行われれば、狩猟期以外に駆除することもできます。また、例えば個人の家の中にハシブトガラスが巣を作って人への威嚇が激しいので、巣落としをする場合でも、巣のなかに卵や雛がいれば捕獲許可が必要となります（52ページ参照）。

このように、カラス1羽、カラスの卵1個を捕るのにも許可を得ないと法律違反となり、処罰の対象となるので、必要な場合には法律に基づいた申請を必ず行うようにしてください。

②カラスは、どうして人を攻撃するのですか

人を攻撃したという報告や相談が多いのは、6～7月です。この頃は、繁殖期であり、特に雛

が巣立ったり大きくなって巣から落ちたりする時期です。そのため、親鳥が雛を守ろうとして人に威嚇をしたことから「襲われた」という苦情や相談につながる 경우가多くあります（48ページ参照）。

多くの場合、大きな声で鳴いたり、頭の上を飛びながら鳴いたり、とまっている枝や電線をガンガンつついたりする威嚇に留まります。しかし、それでも人が気がつかないで雛に近づくと、親鳥が後ろから足で頭を蹴るように飛んでいく、攻撃をすることがあります。

このような攻撃は、都会のハシブトガラスに限ったことではありません。カモメ、コアジサシやセイタカシギなど、多くの鳥でも子どもを守ろうとして行うこのような行動が観察されています。カラスの場合、特に人と生活の場が近接していて体も大きいので、このような行動が時に問題になることがあります。

また、繁殖期以外でも巣や雛を奪われたのを覚えていて、その人を見ると攻撃してくるカラスもいます。また、人に飼われていたりして、馴れたカラスが餌をもらおうと近くに飛んできただけでも、大きく黒い鳥がいきなりやってきたために、人によっては襲われたと思う方もいます。むやみに怖がらないで相手をよく観察し、何をしようとしているのかを判断することで、避けられる場合が多いはず（48ページ参照）。

3 カラスは、どのような方法で捕まえるのですか

カラスは野鳥なので基本的には捕まえてはいけません。飛んでいる大きな鳥を捕る方法は、生死をいとわない方法ならば銃器で撃つのがいちばん簡単です。しかし、人の多い都会や狭い場所ではできません。銃器で一度に撃てるのは1羽ずつなので、撃ち取るよりもむしろ脅しの効果が大きいと考えられます。また、一度入ると出られないような仕組みの大きな鳥小屋のようなわなをつくり捕らえる方法があります（45ページ参照）。

さらに、このわなは大きいほど効果があるので、それだけの規模のものを置く場所を用意する必要があります。また、わなにかかるのは、経験が浅くて、食べ物を取るのが下手な若鳥がほとんどです。このような若鳥は、自然界の中でいずれにしても生きのびられないような個体かもしれないのです。一方、個体数を管理するために捕獲しようとする場合は、繁殖して数を増やしているなわばりを持った成鳥を捕らえる必要があります。しかし、こうした個体を効果的に捕らえる方法は今のところ考案されていません（46ページ参照）。

この他、繁殖中の巣の中の雛や卵を捕獲、採取することもあります（51ページ参照）。

これは特定の親鳥の繁殖を妨害することであり、一度にたくさんの捕獲をめざしたものではありません。また、巣は高いところにあることが多いので専門の業者に頼むのが無難です。いずれにしても、生ごみを散らかしたり人の威嚇を常習的に行う特定の個体を捕らえる決定的な方法は今のところありません。

4 どうしたらカラスを減らせるのでしょうか

都会のハシブトガラスに関わらず、生きものが生きていける、あるいは増えるということにはそれなりの理由があります。その要素は、食べ物がある、次に繁殖する場所がある、天敵から身を隠すことができるということが大きな3つのポイントとなります。

都会のハシブトガラスは、自然が少ないところにいるためにタカなどの天敵も少ない安全な環境で暮らしているといえます。また、彼らが夜に安全に寝ることのできるねぐらは大きな緑地です。このような緑は、都会の貴重な自然ですから人間も大切にしています。また、繁殖の場所はほとんどが樹木です。これも人間の貴重な財産です。

カラスを減らす確実な方法としては、第1に食べ物を減らすことです。都会のカラスは人の出す生ごみや与えられる餌を食べています。そこで時間はかかりますが、生ごみとの接触を減らすという「兵糧攻め」が効果的です（49、59ページ参照）。

そのためにはごみの減量化や深夜や夜明け前のごみ収集などを念頭において、当面はカラス除けネットやシートかけ、ポリバケツなどの容器出しの普及、ごみ集積所の形態の工夫、ごみ出しマナーの徹底など、地域に合わせてきめ細かな工夫を行う必要があります（59ページ参照）。

この他、カラスへの餌付けはもちろんのこと、結果としてカラスへの餌付けとなる他の野生生物への餌やりもなくなることが必要です（70ページ参照）。

5 カラスは、なぜうるさく鳴くのですか

鳥類の多くは、おもに鳴き声と視覚的なディスプレイによってコミュニケーションをとる動物です。よく鳴くのはそのためです。カラスも例外ではありません。ハシブトガラスでは、集合、相手の確認、自己主張、警戒など、様々な場面で鳴き声によるコミュニケーションが行われています。カラスが小鳥類の声と異なるのは、人が快いと思う音域より声が高いこと、音量が大きいこと、鳴き方が音楽的でないことでしょう。

これに加えて、カラスは雌雄の結びつきが比較的強い種類です。そのため、鳴き声の意味の多くは、相手の存在を確かめている声や自分の存在を誇示するための声です。離れてとまっても、鳴き合うことでお互いの存在を確認しあっていることとなります。

また、カラスの多くはなわばりを持って生活しています。そのため、なわばり宣言、なわばりに入ってきたほかのカラスに対しての威嚇、追い払った後の勝利の声など、なわばりを保つためにも鳴き声を利用します。特に、都会のハシブトガラスでは、なわばりが連続してあり、たいへん混んでいる状態です。そのために、絶えず鳴いていることになりがちです。また、5～6月の巣立ちの時には、幼鳥が親鳥を呼んだり、食べ物をねだったりする声が、一段とにぎやかになり苦情の原因となることもあります。

さらに、普段でも群れで採食する時に、お互いに呼びかけあったり、さらに仲間を呼んだり、興奮して1羽が鳴くと、それが群れに伝わって行って、にぎやかに鳴きあうこととなります（

5ページ参照)。

6 カラスと目が合うと襲われるって本当ですか

ごみ捨て場でカラスと目が合うと襲われるという話を聞きますが、実際はどのようなのでしょうか。威嚇が激しくなって、それが攻撃になるのは、繁殖期に雛を守るために行われる行動です。ですから、ごみ捨て場や広場で、ハシブトガラスが人を襲うということは、まずありません。たまたま、ごみ捨て場や広場のそばの街路樹に巣があって、雛がいたという場合しか考えられません。

かえって、目が合えばカラスの動きを見ていられるので威嚇に気が付き、攻撃を受けそうならその場を離れることができると思います。また、カラスが攻撃してくるのは、たいていは後ろからですから、やはりカラスをきちんと見ていた方が、攻撃をかわしたり逃げたりすることができるでしょう。いちばん、危険なことは、ただ恐れて逃げようとして転んでより大きなけがをすることでしょう。カラスがいても毅然とした態度をとることが必要です。

7 カラスはどうしたら飼えますか

基本的には、野生生物を個人のものとして飼育することは好ましくありません。まず飼うためには捕獲しなくてはなりません。また、ハシブトガラス、ハシボソガラスとも、狩猟鳥ですので狩猟期間内は捕獲可能です。ただし、捕獲方法は銃器、わなともいずれを使う場合もそれぞれ免許が必要です。また、狩猟期間以外であれば、各都道府県知事などが発行する捕獲許可を取らなくてはなりません。愛がん飼養のための許可はおりないのが普通です。

カラスは、学習能力に富んだ生きものですので、餌をもらえることでたいへん人に馴れます。その結果、逃げ出したり放したりした場合、人を見ると餌をもらえると思って近くにやってきます。また、人を恐れないので人家の庭の樹木や街路樹で巣を作り、結果幼鳥が落ちてしまい神経質になった親鳥が人を威嚇したり襲ったりということになるかもしれません。

ただし、傷ついたものなどで野生に戻すことができないと判断された場合は、止むを得ず飼育しなくてはならないことがあります。傷ついた鳥を見つけた場合は、各都道府県の鳥獣担当係に相談して指示を受けてください (128ページ参照)。

8 カラスは食べられますか

基本的には、食べられます。カラスの料理方法はいくつかありますが、比較的知られているのが、蠟燭焼きです。これは、カラスの肉を細かくたたき、これにネギなどを混ぜさらに小麦粉を加えて練り、これを細い竹に蠟燭のように巻き付け焼いて食べるものです。いわば、つくねのようなもので形はちくわです。長野県上田市の八日堂では1月8日の縁日にこれを食べる風習があると言います (堀内賛位 1945)。

また、中国の宮廷料理にもあるといいます。この料理法は、内臓と首を取り、火で焙った後、

塩をすり込み、湯がきして血抜きをします。このなかに、ネギ、生椎茸、ゴマ油、桂皮、丁香、老酒、味噌などを詰めて、中身がでないように縛ります。これを、石鍋に入れて弱火で10時間ほど煮込むもので、体が温まるのだそうです（古川正躬 2001）。

このほか、韓国でカラスが少ないのは、漢方薬としてカラスの薫製が珍重され食べてしまったからだと言われています。ですので、昔からカラスを食べることはさほど珍しいことではなかったといえます。

9 カラスはどうしてごみを食い散らかすのですか

ハシブトガラスが、半透明のビニール袋に入ったごみをあさる様子を観察していると、赤っぽいものや濡れたものを狙っていることがわかります。赤いものは肉、濡れたものも魚の肉など、高蛋白質の栄養価の高い食べ物に出会う確率が高い目印です。少なくとも、乾いている紙くずではないことから、食べ物にありつける可能性が高いことになります。

そして、袋をつつき破り、中の物を引き出し、目当ての食べ物だけを探って、他のものは置きざりにします。また、引き出してみたが目当てのものがなければ、他の袋や別の場所で同じように探し続けます。その結果、ごみが散らかってしまうのです（59ページ参照）。

カラスのごみの食べ方



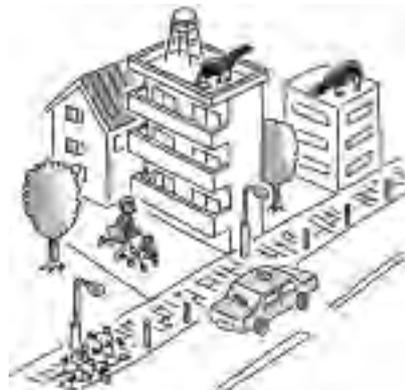
1. 近くにとまって安全を確かめる



2. 近くに舞いおりる



3. 赤いものやぬれたものを狙って引っ張り出す



4. 安全なところへ行って喉の袋から出して食べる

10 カラスはどのように群れているのですか

公園に行くと集団で「カアカア」鳴いているカラスの群れがいることがあります。また、朝早くごみの山にはカラスが集まっています。もし、公園や神社の近くに住んでいると、朝晩カラスの群れがねぐらを出入りする時に鳴き交わしているのによく出会うでしょう。

カラス以外にも、群れで過ごす動物はたくさんいます。群れるのは、捕食者から逃げやすい、食べ物を見つける可能性が高くなる、配偶者を見つけることができるなどの利点があるからです。

ハシブトガラスの社会構造は、まだ完全には明らかになっていませんが、成鳥の多くは、なわばりをもって生活しています。昼間は、単独か雌雄でなわばり内にいることが多くあります。一方、群れているカラスは、まだ繁殖年齢に至らない若鳥たちであると思われます。ハシブトガラスが、繁殖ができるようになるまでには巣立ってから2~3年はかかるといわれています。その間、若者同士で群れをつくり、比較的広い行動圏を持って行動しているようです。この群れの中には、なわばりを持たなかったものや、繁殖に失敗した成鳥も入っているかもしれません。

カラスの群れがうるさく感じられるのはコミュニケーションのためによく鳴くからでしょう。群れの中は特に警戒心の強い個体や気の小さな個体もいて、人が近づくたびに鳴いて警戒し、さらにその騒ぎが群れ全体に広がったりすると、にぎやかに鳴き合います。

若鳥の群れの動きや役割などについては、まだまだわからないことがたくさんあり、今後も研究が必要です（ 13ページ参照 ）。

11 カラスがツバメの巣を狙っているのですがどうしたらよいですか

都会のハシブトガラスが、ツバメのみならず、スズメやシジュウカラの巣や雛を狙うことがよくあります。カラスは、自然界の掃除屋であるとともに、自分より小さな生きものを捕えて食べる捕食者でもあります。特に繁殖期には子育てのために高タンパクの良質な食べ物を必要とします。そこで、自分のなわばり内にいる生きものの卵や雛を狙うわけです。

しかし、目の前で雛が狙われているのを見ると、何とか防いでやりたいと思うのが当然です。ツバメの巣がどのようなところにあるかによって、防ぎ方は違ってきますが、基本的にはカラスが物理的に近づけないようにすることが大切です。例えば、ガレージのような閉鎖された場所ならば、入り口ではなく、奥まったところにツバメの巣用の台を取り付けておくとか、ツバメは入ることができてもカラスは入れないような隙間を作るといったような工夫が考えられます。また、ツバメの巣の前に針金や重しを付けたヒモを数本並べて垂らし、ツバメにはじゃまにならずカラスが飛び込めないようにして、防ぐ方法も考えられます。

また、ツバメの雛が巣立った時もカラスはちゃんと待っています。これに対しては、巣立ちの瞬間にカラスに取られないように人が見張るのがいちばんでしょう。

12 カラスの幼鳥を拾ったのですが、どうしたらよいのでしょうか

まず、カラスの幼鳥を見つけても決して拾わないでください。地面に下りた幼鳥が飛べないのは、ケガをしているからではなく、巣立ったばかりのよちよち歩きの段階だからです。普通、巣立ったばかりの幼鳥は、森の中で枝渡りをしながら親の後を付いていきます。ところが街路樹や狭い緑地の巣から巣立ったものは樹木が連続していないために、地面に下りてしまうことがあるのです。

これを人が保護しようとする、親鳥から見れば目の前で幼鳥を誘拐されることになります。そのため、親鳥が子を守ろうとして激しく威嚇をしたり、さらには攻撃をしてくる危険がありますので注意が必要です。

なお、カラスの幼鳥の大きさは、親鳥と同じくらいですが、眼の虹彩が青、または灰色、瞳も薄色に見えること、口の中や縁がピンクであること、尾羽が短めであること、鳴き声は甘えたような鼻にかかった「ンガー」と鳴くことなどで区別できます。この他、足が弱くぺったりと座った感じでとまっていることがあること、人怖じしないこと、動作が心もとないことなども区別の目安になります（ 96ページ参照 ）。

また、たとえ実際に傷ついたり、弱った雛であったとしてもハシブトガラスの雛のうち、何羽かは死んで行くのが自然の掟です。生ごみを食べ物にすることにより、雛が餓死することが減ったことが、都会のカラスの増加につながっていることを思い出してください。

止むを得ず、傷ついたものや幼鳥を捕獲してしまった場合は、速やかに各都道府県の鳥獣担当係に問い合わせてください。傷ついた鳥獣の保護体制は都道府県によって様々です。収容施設としての鳥獣保護センターを設置している自治体から、契約している動物園や鳥獣商などの施設で受け入れるところなどいろいろなシステムがあります。この他、ボランティアにいわば里親制度のように保護飼育依頼書を発行し、飼育してもらっている場合もあります（ 128ページ参照 ）。

2.カラスの参考書

カラスの問題に取り組むにあたって、参考になるおもな書籍を紹介します。カラスに関しては、この他にもいくつかの書籍が発行されていますが、2001年3月現在で入手可能なものを中心に出版順にあげました。この他、本書では参考、引用した文献が多数あります。これらは巻末に記してありますので、そちらも必要に応じて参考にしてください。

『カラスはどれほど賢いか - 都市鳥の適応戦略 - 』

唐沢孝一・著

発行年：1988年

発行所：中公新書

ISBN：4121008774

本体価格: 700円

おもな目次

野鳥にとって都市とは何か
銀座のカラスはカーと鳴く
ヒートアイランドの夜
カラスを追跡する
都会派カラスの子育て法
街中のスカベンジャー
カラスの知恵袋
カラスの遊戯
カラスと人の交友
カラスと人の知恵比べ
カラスの博物学



『とうきょうのカラスをどうすべきか 第1回シンポジウム報告書』

川内博、松田道生・編集

発行年：1999年

発行所：日本野鳥の会東京支部

ISBN：なし

定価：1000円

おもな目次

カラスとの共存
カラスはごみの化身か？
「六義園」のカラスから東京のカラスを見る
井の頭公園のカラスとその行動
大田区佐伯栄養学校内へのカラスのねぐら入りの数の変化
自然教育園のタグ付きカラスの行動圏
平林寺におけるカラスの生息状況の変化とその影響
人間や野生動物への加害と採食環境



「とうきょうのカラスをどうすべきか」をどうすべきか
「とうきょうのカラスをどうすべきか」第1回シンポジウム報告
カラス関連・文献リスト

『とうきょうのカラスをどうすべきか 第2回シンポジウム報告書』

川内博、松田道生・編集

発行年：2000年

発行所：日本野鳥の会東京支部

ISBN：なし

定価：1000円



おもな目次

第1部 第2回とうきょうのカラスをどうすべきかシンポジウム報告
カラスはどんな動物か

東京のカラス類と生ごみについて - 中間報告 -

東京都におけるごみ収集の現状

世界の主要43都市における生ごみ収集方法について - 日本との比較

基調報告に関連しての質疑応答

パネルディスカッション「とうきょうのカラスをどうすべきか」

シンポジウム関係・マスコミ報道ファイル

第2部 1999年度日本鳥学会自由集会「東京の街のハシブトガラス考」・基調報告

ハシブトガラスが都市生活者となったわけ - 都市緑地における繁殖生態

京都市内におけるハシブトガラスとハシボソガラスの比較

札幌のカラス事情

カラス関連・文献リスト

『カラスの大研究 - 都会の悪者か 神さまの使いか - 』

国松俊英・著

発行年：2000年

発行所：PHP出版

ISBN：4-569-68212-X

定価：1200円



おもな目次

線路の置石事件

都会のカラスは生ごみが好き

きらわれ者のカラス

カラスはどれほどかしこいか

人間となかよしになったカラス

カラスが鳴くと人が死ぬ

カラスに豊作を祈る

カラスは神の使いだった

カラスは太陽にすんでいた

光と火をもたらしたカラス

『カラス、なぜ襲う - 都市に棲む野生 - 』

松田道生・著

発行年：2000年

発行所：河出書房新社

ISBN：4-309-25126-9

本体価格：1600円

おもな目次

今、カラスが危ない

カラスを知る

カラスは増えたか

カラス対策



『カラスとネズミ』

川内 博、遠藤秀紀・著

発行年：2000年

発行所：岩波書店

ISBN：4-00-006721-4

本体価格：1900円

おもな目次

第1部 カラス

世界に冠たるカラス天国東京

関心高い「カラス問題」

興味深いカラスの世界

問題児・ハシブトガラス

悪者は誰だ

第2部 ネズミ

第3部 討論・カラスとネズミは何を問うているのか



『カラス、どこが悪い!?』

樋口広芳、森下英美子・著

発行年：2000年

発行所：小学館文庫

ISBN：4-09-417481-8

本体価格：476円

おもな目次

カラスと人間生活との摩擦

カラスのくらし

カラスとどう共存するか



3.カラス対策関連事業



タイトル：都会のカラス
- その被害と私たちにできること -
仕様：A4版、8ページ見開き
カラー印刷



ハシブトガラス ハシボソガラス

繁殖

都市部では、コンクリートや鉄筋コンクリートの建物に巣をつくらせ、繁殖しやすくなっています。また、都市部では、コンクリートや鉄筋コンクリートの建物に巣をつくらせ、繁殖しやすくなっています。

子育て

都市部では、コンクリートや鉄筋コンクリートの建物に巣をつくらせ、子育てしやすくなっています。また、都市部では、コンクリートや鉄筋コンクリートの建物に巣をつくらせ、子育てしやすくなっています。

越冬

都市部では、コンクリートや鉄筋コンクリートの建物に巣をつくらせ、越冬しやすくなっています。また、都市部では、コンクリートや鉄筋コンクリートの建物に巣をつくらせ、越冬しやすくなっています。

ゴミあさり

都市部では、コンクリートや鉄筋コンクリートの建物に巣をつくらせ、ゴミあさりしやすくなっています。また、都市部では、コンクリートや鉄筋コンクリートの建物に巣をつくらせ、ゴミあさりしやすくなっています。

（鳥の餌の減少や繁殖地の減少）
 ■都市部では、コンクリートや鉄筋コンクリートの建物に巣をつくらせ、繁殖しやすくなっています。また、都市部では、コンクリートや鉄筋コンクリートの建物に巣をつくらせ、繁殖しやすくなっています。
 ■都市部では、コンクリートや鉄筋コンクリートの建物に巣をつくらせ、繁殖しやすくなっています。また、都市部では、コンクリートや鉄筋コンクリートの建物に巣をつくらせ、繁殖しやすくなっています。
 ■都市部では、コンクリートや鉄筋コンクリートの建物に巣をつくらせ、繁殖しやすくなっています。また、都市部では、コンクリートや鉄筋コンクリートの建物に巣をつくらせ、繁殖しやすくなっています。
 ■都市部では、コンクリートや鉄筋コンクリートの建物に巣をつくらせ、繁殖しやすくなっています。また、都市部では、コンクリートや鉄筋コンクリートの建物に巣をつくらせ、繁殖しやすくなっています。

発行：環境省自然環境政策課 環境省自然環境政策課
 制作：環境省自然環境政策課 環境省自然環境政策課
 録音：環境省自然環境政策課 環境省自然環境政策課
 録画：環境省自然環境政策課 環境省自然環境政策課

都会のカラス なぜ増える

—その原因と対策—



ここ数年、カラスの増加に伴う被害や苦情が後を絶ちません。なぜ都会でカラスが増えるのでしょうか？ 私たちにできることは何か考えてみましょう。

STEREO



18min

タイトル：都会のカラスなぜ増える - その原因と対策 - 仕様：VHS方式、録画時間・約18分

環境省（環境庁）では、カラス被害対策の推進のため、平成11年度にパンフレットとVTRを制作し、全国の自治体に配布しました。なお、パンフレットは、環境省のホームページで閲覧することができます。

<http://www.env.go.jp/nature/karasu/index.html>

4. 都道府県鳥獣保護担当部局一覧

都道府県	部(局) 課(室) 名	係(班) 名	代表電話番号	直通電話番号	郵便番号	住 所
北海道	環境生活部環境室 自然環境課野生生物室	野生生物係 鳥獣保護係	011-231-4111		060-8588	札幌市中央区北3条西6
青森県	環境生活部自然保護課	自然環境班	017-722-1111	017-734-9257	030-8570	青森市長島1-1-1
岩手県	環境生活部自然保護課	野生生物係	019-651-3111	019-629-5374	020-8570	盛岡市内丸10-1
宮城県	環境生活部自然保護課	鳥獣保護班	022-211-2111	022-211-2673	980-8570	仙台市青葉区本町3-8-1
秋田県	生活環境文化部自然保護課 林務部林業政策課	自然環境班 森林保護班		018-860-1613 018-860-1923	010-8570	秋田市山王4-1-1
山形県	文化環境部環境政策推進室 環境保護課	自然環境担当	023-630-2211	023-630-2206 2207	990-8570	山形市松波2-8-1
福島県	生活環境部環境政策課	自然保護グループ 野生生物チーム	0245-21-1111	024-521-7250	960-8670	福島市杉妻町2-16
茨城県	生活環境部環境政策課	自然鳥獣保護グループ	029-301-1111	029-301-2946	310-8555	水戸市笠原町978-6
栃木県	林務部自然環境課	自然保護担当		028-623-3261	320-8501	宇都宮市埴田1-1-20
群馬県	環境生活部自然環境課	鳥獣保護係	027-223-1111	027-226-2874	371-8570	前橋市大手町1-1-1
埼玉県	環境防災部みどり自然課	鳥獣保護担当	048-830-3140	048-830-3154	336-8501	さいたま市高砂3-1-1
千葉県	環境生活部自然保護課 鳥獣管理対策室	鳥獣保護班 管理対策班		043-223-2972 043-223-2058	260-8667	千葉市中央区市場町1-1
東京都	産業労働局農林水産部林務課	鳥獣保護係	03-5321-1111	03-5320-4859	160-8001	新宿区西新宿2-8-1
神奈川県	環境農政部緑政課	野生生物班	045-210-1111	045-210-4319	231-8588	横浜市中区日本大通1
新潟県	環境生活部環境企画課	鳥獣保護係	025-285-5511	025-280-5152 (夜間直通)	950-8570	新潟市新光町4-1
富山県	生活環境部自然保護課	野生生物係	076-431-4111	076-444-3397	930-8501	富山市新総曲輪1-7
石川県	環境安全部自然保護課	鳥獣係	076-261-1111	076-223-9172	920-8580	金沢市広坂2-1-1
福井県	福祉環境部自然保護課	自然環境保全グループ	0776-20-0306	0776-20-0306	910-8580	福井市大手3-17-1
山梨県	森林環境部みどり自然課	自然保護担当	055-223-1520	055-223-1520	400-8501	甲府市丸の内1-6-1
長野県	林務部森林保全課	森林鳥獣保護係	026-232-0111	026-235-7273 7270	380-8570	長野市大字南長野市巾下692-2
岐阜県	健康福祉環境部環境局 自然環境森林課	鳥獣保護係	058-272-1111		500-8570	岐阜市藪田南2-1-1
静岡県	環境部環境共生総室自然保護室	野生生物係	054-221-2719	054-221-2719	420-8601	静岡市追手町9-6
愛知県	環境部自然環境課	自然環境グループ	052-961-2111 077-524-1121	052-961-3730 (夜間のみ)	460-8501	名古屋市中区三の丸3-1-2
三重県	環境部自然環境課	自然・野生生物グループ	975-451-8111	059-224-2578 (2626、2815)	514-8570	津市広明町13
滋賀県	琵琶湖環境部自然保護課	野生生物担当	06-6941-0351	077-528-3481	520-8577	大津市京町4-1-1
京都府	農林水産部森林保全課	緑化推進係	078-341-7711	075-414-5026	602-8570	京都市上京区下立売通新町西入敷の丸町
大阪府	環境農林水産部緑整備室緑推進課	緑化・自然環境グループ		06-6944-6747	540-8570	大阪府中央区大手前2-1-22
兵庫県	県民生活部環境局環境政策課 自然環境保全室	鳥獣保護係		078-362-3463	650-8567	神戸市中央区下山手通5-10-1

都道府県	部(局) 課(室) 名	係(班) 名	代表電話番号	直通電話番号	郵便番号	住 所
奈良県	農林部森林保全課	鳥獣保護係	0742-22-1101		630-8501	奈良市登大路町30
和歌山県	環境生活部環境生活総務課	自然公園班	073-432-4111	073-441-2779	640-8585	和歌山市小松原通1-1
鳥取県	農林水産部森林保全課	造林保護係	0857-26-7111	0857-26-7305	680-8570	鳥取市東町1-220
島根県	農林水産部森林整備課	保護猟政係	0852-22-5111	0852-22-5160	690-8501	松江市殿町1
岡山県	生活環境部自然環境課	緑化鳥獣係	086-224-2111	086-226-7310	700-8570	岡山市内山下2-4-6
広島県	環境生活部環境局 環境創造総室 自然環境保全室	野生生物 グループ	082-228-2111	082-511-6705	730-8511	広島市中区基町10-52
山口県	環境生活部自然保護課	野生生物係	083-933-3055	083-933-3055	753-8501	山口市滝町1-1
徳島県	県民環境部環境局循環型社会 推進課自然共生室	自然ふれあい担当		088-621-2262	770-8570	徳島市万代町1-1
香川県	生活環境部環境局環境土地 政策課自然保護室	緑化・野生生物 グループ	087-831-1111	087-832-3212	760-8570	高松市番町4-1-10
愛媛県	県民環境部環境局自然保護課	野生生物係	089-941-2111	089-934-1461	790-8570	松山市一番町4-4-2
高知県	森林局森林政策課	鳥獣保護班	088-823-1111	088-821-4574	780-8570	高知市丸の内1-2-20
福岡県	水産林務部緑化推進課	保護係	092-651-1111	092-643-3550	812-8577	福岡市博多区東公園7-7
佐賀県	環境生活局環境課	自然保護係	0952-24-2111	0952-25-7080	840-8570	佐賀市城内1-1-29
長崎県	県民生活環境部自然保護課	野生生物班	095-824-1111	095-826-6715	850-8570	長崎市江戸町2-13
熊本県	環境生活部自然保護課	野生鳥獣班	096-383-1111	096-383-1834	862-8570	熊本市水前寺6-18-1
大分県	林業水産部森林保全課	環境保護係	097-536-1111		870-8501	大分市大手町3-1-1
宮崎県	生活環境部生活環境課	自然保護係	0985-24-1111	0985-26-7291	880-8501	宮崎市橘通東2-10-1
鹿児島県	環境生活部環境保護課 林務水産部森林保全課	野生生物係 保護猟政係	099-286-2111	099-286-2546 099-286-3394	890-8577	鹿児島市鴨池新町10-1
沖縄県	文化環境部自然保護課	野生生物係	098-866-2333	098-866-2243	900-8570	那覇市泉崎1-2-2

(平成13年4月1日現在)

連絡先メモ

鳥獣保護センター

自然保護団体

出先機関

鳥獣保護員

参考文献（著者50音順）

- 荒尾精二 1999 平林寺におけるカラスの生息状況とその影響 とうきょうのカラスをどうすべきか第1回シンポジウム報告書 日本野鳥の会東京支部
- 池田真次郎 1957 カラス科に属する鳥類の食性に就いて 鳥獣調査報告書 No.16
- 内田清之介 1961 鳥のむかし話 大日本図書
- 内田清之助 金井紫雲 1929 鳥 三省堂
- 内田清之助、末廣恭雄 1954 鳥博士と魚先生 筑摩書房
- 唐沢孝一 1996 カラスは天才! ごま書房
- 唐沢孝一 他 1996 第3回 都心に於けるカラスの集団壻の個体数調査(1995) Urban Birds Vol.13 No.1 都市鳥研究会
- 川内 博 2000 カラスとネズミ 岩波書店
- 環境庁自然保護局 1998 鳥獣関係統計 環境庁
- 清棲幸保 1965 日本鳥類大図鑑 第1巻 講談社
- 吉良幸世 1972 バードセンスを続けましょう 私たちの自然 No.127 日本鳥類保護連盟
- 黒沢令子、他 1999 東京のカラス類と生ごみについて(中間報告)とうきょうのカラスをどうすべきか第2回シンポジウム報告書 日本野鳥の会東京支部
- 黒田長久 1982 鳥類生態学 出版科学総合研究所
- 黒田長久 1990 The Jungle Crow of Tokyo. Yamashina Inst.Ornithol.
- クーパー, J.E. & エリー, J.T. 1987 野鳥の医学 どうぶつ社
- 小林佳助 1956 原色日本鳥類図鑑 保育社
- 柴田敏隆 1980 カラス - その生態と被害対策 - 住環境の有害鳥獣対策レポート
- 清水徹男 1998 東京郊外におけるカラスの記録あれこれ 日本野鳥の会東京支部研究会配布資料
- 総合的な学習実践研究会 1998 イチョウだって、カラスだって、総合的な学習 東洋館出版社
- 竹中万紀子 1999 札幌のカラス事情 とうきょうのカラスをどうすべきか第2回報告書 日本野鳥の会東京支部
- 高野伸二 1980 野鳥識別ハンドブック 日本野鳥の会
- 玉田克巳、藤巻裕蔵 1993 帯広市とその周辺におけるハシブトガラスとハシボソガラスの繁殖生態 Jpn. J. Ornithol. Vol.42 No.1 9-20 日本鳥学会
- 東京都環境保全局 1998 東京都繁殖状況調査報告書 東京都
- 東京都林務課 2000 平成12年度カラス緊急捕獲事業 出動基準等 東京都経済局林務課
- 中村純夫 2000 高槻市におけるカラス2種の営巣環境の比較 Jpn. J. Ornithol. Vol.49 No.1 39-50 日本鳥学会
- 日本自然保護協会保護委員会動物小委員会 1976 野生鳥獣の餌付けを考える 日本自然保護協会
- 日本鳥類保護連盟 2000 環境庁委託業務報告書 平成11年度鳥獣害性対策調査(カラスやドバトによる被害の防除対策検討調査)報告書 日本鳥類保護連盟

- 日本野鳥の会神奈川支部 2001 川崎市におけるカラスの生息状況 川崎市
- 日本野鳥の会研究センター 2001 カラスフォーラム2001・配布資料
- 羽田健三、飯田洋一 1966 ハシボソガラスの生活史に関する研究 日本生態学会誌 Vol.16
No.3 (羽田健三・編 1986 鳥類の生活史 築地書館より引用)
- 広島市はと対策検討委員会 1999 広島市ハト対策実施報告書 広島市
- 深松 登 1998 カラス係長奮闘記 北海道新聞社出版局
- 福田道雄 1999 ハシブトガラスが都市生活者となったわけ - 都市緑地における繁殖生態 - とうきょう
のカラスをどうすべきか第2回シンポジウム報告書
- 藤村 仁 1999 自然教育園のタグ付きカラスの行動圏 とうきょうのカラスをどうすべきか第1回シン
ポジウム報告書 日本野鳥の会東京支部
- 古川 正躬 2001 「青鴉妃」の作り方 狩猟界 Vol.45 No.3 105-107
- ペリンズ, M. クリストファー 1996 世界鳥類事典 同朋舎出版
- 堀内賛位 1945 鳥と獵 昭森社
- 松田道生 1995 六義園の野鳥 自費出版
- 松田道生 2000a 大江戸鳥曆 河出書房新社
- 松田道生 2000b 住宅地のハシブトガラスの繁殖状況 ユリカモメ No.538 日本野鳥の会東京支部
- 松原 始 1999a とうきょうのカラスをどうすべきかをどうすべきか とうきょうのカラスをどうす
べきか第1回シンポジウム報告書 日本野鳥の会東京支部
- 松原 始 1999b 京都市におけるハシブトガラスとハシボソガラスの比較 とうきょうのカラスをどう
すべきか第1回シンポジウム報告書 日本野鳥の会東京支部
- 山階芳麿 1934 日本の鳥類の其の生態 第1巻 梓書房
- 山根茂生 1999 大田区佐伯栄養学校内へのカラスのねぐら入り数の変化 とうきょうのカラスをどうす
べきか第2回シンポジウム報告書 日本野鳥の会東京支部
- 由井正敏、阿部禎 他 1992 鳥獣害の防ぎ方 農山漁村文化協会
- Haag-Wackernagel, D, 1995 Regulation of the street pigeon in Basel. Wildlife Society Bulletin Vol.23
No.22 256-260

[索引]

あ

威嚇 ----- 31
受付票 ----- 91
営巣 ----- 11
餌付け ----- 28
餌付けの禁止 ----- 70
折り畳み式集積所 ----- 64・69

か

観察のポイント ----- 100
教育の場で取り入れ ----- 98
駆除 ----- 43
苦情相談 ----- 90
攻撃 ----- 31
行動圏 ----- iv
ごみ減量 ----- 61
ごみ散乱 ----- 60
効果測定 (調査) ----- 75
戸別収集 ----- 63

さ

飼育 ----- 121
識別 ----- 4
死体 ----- 113
シナントロープ ----- 23
市民団体 ----- 104
寿命 ----- 110
食性 ----- 9
申請 (捕獲) ----- 52
生活被害 ----- 29
生息密度 (調査) ----- 79
生息地 ----- 6
巣 ----- 8・11
巣落とし ----- 51

騒音 ----- 58
増加 (公園) ----- 18
増加 (住宅地の営巣) ----- 21
増加 (ねぐら) ----- 19
早朝収集 ----- 61・66
生息環境 ----- 6
スカベンジャー ----- 22

た

調査の考え方 ----- 75
調査の体制 ----- 76
調査の注意 ----- 76
貯食 ----- 9
鳥獣保護法 (鳥獣保護及狩猟
二関スル法律) ----- 51
天敵 ----- 113

な

鳴き声 ----- 5
なわばり ----- 11
ねぐら ----- 12
ねぐら調査 ----- 85
ネット掛け ----- 63
ネットワーク ----- 104

は

ハシブトガラス ----- 4
ハシボソガラス ----- 4
繁殖 ----- 11
繁殖個体 ----- 14
繁殖調査 ----- 82
被害実態の把握 ----- 40

雛 ----- iv
非繁殖個体 ----- 14
フィードバック ----- iv・42
普及啓発 ----- 95
法律 ----- 43・51
防除 ----- 60
捕獲 ----- 43
分類 ----- 3
ペットフード ----- 29
病気 ----- 117

ま

モニタリング ----- iv・42
モビング ----- 112

やらわ

幼鳥 ----- 96
若者の群れ ----- 13
夜間収集 ----- 61
予防 ----- 95
わな ----- 43・46

制作スタッフ

執筆：日本野鳥の会研究センター 金井 裕・黒沢令子
松田道生

協力：品川区環境清掃部リサイクル課
世田谷区世田谷総合支所区民部区民課
環境総合対策室環境課
清掃・リサイクル部

日野市環境共生部リサイクル推進課

三鷹市生活環境部ごみ対策課

川崎市環境局川崎生活環境事業所
経済局農業振興センター

表紙及びカラー・イラスト：藪内正幸

本文イラスト：重原美智子

写真：奥山正樹、川嶋直久、久保田英史、黒沢令子、成末雅恵、松田道生、山田泰広

デザイン：(株)アイデス・プランニング

印刷：(株)アライ印刷

環境省請負

自治体担当者のための
カラス対策マニュアル

2001年3月

発行 環境省自然環境局

〒100-8975 東京都千代田区霞ヶ関1-2-2

制作 (財)日本野鳥の会

〒151-0061 東京都渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1F



自治体担当者のための
カラス対策マニュアル



010921
古紙の利用